

令和3年度(2021.4-2022.3)

血液事業概要

埼玉県赤十字血液センター

目次

所長あいさつ	1ページ
埼玉県赤十字血液センターの沿革	2ページ
組織機構図と職員数	7ページ
血液センターの業務	8ページ
施設の案内	12ページ
献血ルームの案内	14ページ
広報・キャンペーン活動	16ページ
研修・見学.....	18ページ
統計資料	20ページ

所長あいさつ



平素より埼玉県赤十字血液センターの血液事業につきまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和3年度、埼玉県では延べ 240,942 人の皆様に善意の献血へご協力いただき、血液を必要としている患者様のもとへ滞りなく輸血用血液製剤をお届けすることができました。これは、献血にご協力いただきました皆様をはじめ、埼玉県各市町村、地域の協力団体等、多くの方々のご尽力のおかげと、心よりお礼申し上げます。

さて、血液事業における新型コロナウイルス感染拡大の影響ですが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、令和3年度においても約 250 団体による移動採血バスの献血が中止となりましたが、協力団体の複数回実施及び新規協力団体の増加により、乗り切ることが出来ました。

さらに、埼玉県内においては輸血用血液製剤と、血液を原料とする血漿分画製剤の需要が増加しており、様々な血液確保策を実施するとともに、従来行っていた Twitter、Facebook に加え、Instagram を開始し、献血の普及啓発や理解促進を図っております。

なお、献血にご協力いただく際には、複数回献血クラブ『ラブラッド』からご予約のうえ来場いただくことで所要時間を短縮し、密を避けることにより、新型コロナウイルスの感染リスクを低減するなど、「新しい生活様式」に基づいた血液確保に努めてまいりました。

医療技術が発展した今も、輸血に使用される血液は人工的に造ることができません。他に代わるものの無い輸血用血液製剤を患者様へお届けするためには皆様の献血へのご理解とご協力が不可欠です。

安全な輸血用血液製剤の安定供給に向け職員一丸となって努めて参る所存ですので、引き続き皆様の力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月

埼玉県赤十字血液センター

所長 中川 晃一郎

埼玉県赤十字血液センターの沿革

●1964年（昭和39年）

- 8月 「献血推進について」の閣議決定
- 11月 日赤本社から日赤埼玉県支部に移動採血車（愛の献血車）1台配備
- 12月 埼玉県献血推進協議会を設置

●1965年（昭和40年）

- 2月 埼玉県赤十字血液センターを大宮赤十字病院の一室に開設（業務開始）
- 6月 埼玉県赤十字血液センター施設を大宮赤十字病院の敷地内に新築落成



- 9月 「第1回愛の献血助け合い運動」を実施
- 11月 県内の保健所地区すべてに献血推進協議会を設置

●1967年（昭和42年）

- 3月 県内の市町村すべてに献血担当窓口を設置

●1968年（昭和43年）

- 4月 献血相談員制度（1971年4月に献血指導員に改称）を発足
- 8月 不規則抗体スクリーニング検査を開始
- 10月 県内最初の市町村献血組織（川越市献血会）を設置

●1969年（昭和44年）

- 8月 県内での献血者10万人を達成
- 10月 「第1回埼玉県・愛の血液助け合いの集い」を埼玉会館（浦和市）で開催
- 11月 県費補助金により肝機能・血液型検査サービスを開始（1977年3月まで実施）

●1970年（昭和45年）

- 4月 浦和出張所、大宮出張所、東松山出張所、深谷出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1971年（昭和46年）

- 3月 Au（HBs）抗原検査を開始
- 11月 川口出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1973年（昭和48年）

- 8月 血液成分製剤の製造を開始

●1974年（昭和49年）

- 4月 国庫補助金により血液代金自己負担金給

付制度を発足（1986年4月廃止）

●1975年（昭和50年）

- 9月 血液製剤用に血液型別カラーラベルの使用を開始

●1976年（昭和51年）

- 8月 Rhマイナス型の献血者登録を開始
- 11月 埼玉県赤十字血液センター施設を県立がんセンター敷地内（伊奈町）に新築移転（旧施設は大宮第二出張所に改称（1983年12月に廃止））

●1977年（昭和52年）

- 4月 異常値を示した献血者に対する生化学検査結果の通知を開始
- 6月 献血者登録制度を開始
- 10月 HBs抗原検出用試薬の製造を開始

●1978年（昭和53年）

- 4月 HBs抗原検出用試薬の全血液センターへの供給を開始

●1979年（昭和54年）

- 3月 県内での献血者100万人を達成



- 4月 HLA抗体スクリーニング検査を試験的に開始
- 7月 研究部（HBs抗原検出用試薬の製造供給・開発研究）を設置
- 9月 岩槻市役所で県内最初の出張（オープン）採血を実施
- 10月 バッグによる採血に全面切替（ビンでの採血を中止）

●1980年（昭和55年）

- 1月 献血手帳から優先還元に関する記載事項を削除

●1981年（昭和56年）

- 3月 第1回学術研修会を埼玉労働会館（浦和市）で開催
- 11月 県内での献血者150万人を達成

●1982年（昭和57年）

- 4月 献血者全員に対する生化学検査結果の通知を開始、献血手帳から供給記録欄を

削除

ルームを開設（2008年9月 移転閉所）

●1983年（昭和58年）

- 4月 HLA抗体スクリーニング・抗体同定検査をルーチンとして実施、HLAタイピングトレイの製造・供給を開始（熊谷赤十字血液センターに引継ぎ、1997年9月に中止）
- 7月 県内2つめの血液センターとして、熊谷市に熊谷赤十字血液センターを開設（新築）
- 10月 県内での献血者200万人を達成

●1984年（昭和59年）

- 3月 県内最初の献血ルームとして、大宮駅近くに大宮西口献血ルームを開設（2001年7月に移転）
- 4月 大宮分室施設を増改築し研究部を移転
- 11月 米国赤十字血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

●1985年（昭和60年）

- 11月 英国の血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

●1986年（昭和61年）

- 4月 400mL、成分献血の実施
- 5月 所沢西武デパート内に所沢西武献血ルームを開設（2001年4月に移転改称）
- 5月 熊谷赤十字血液センターで抗ヒトグロブリン（クームス血清）の製造供給を開始（2002年3月に中止）
- 7月 AIDS抗体検査（ELISA法）を開始
- 9月 血球計数検査を開始
県内での献血者300万人を達成
- 11月 ATL抗体検査を開始

●1987年（昭和62年）

- 7月 第23回献血運動推進全国大会を埼玉県（浦和市文化センター）で開催（ご臨席の皇太子殿下・同妃殿下が熊谷赤十字血液センターを行啓）



●1988年（昭和63年）

- 4月 越谷サンシティ内に越谷サンシティ献血

●1989年（平成元年）

- 11月 HBc抗体検査（HI法）・HCV抗体検査（ELISA法）を開始

●1990年（平成2年）

- 7月 HLA適合血小板製剤の供給を開始

●1991年（平成3年）

- 4月 日赤埼玉県支部内に第三血液センター建設準備室を設置（1993年5月迄）
- 6月 CMV抗体検査を開始
- 11月 熊谷成分献血友の会が発足

●1992年（平成4年）

- 1月 埼玉県赤十字血液センターと熊谷赤十字血液センターに骨髓データセンターを併設
- 5月 大宮駅東口に大宮東口献血ルームを開設、クレアモール商店街（川越市）に川越献血ルームを開設

●1993年（平成5年）

- 4月 日赤埼玉県支部内に第三血液センター開設準備室を設置（同年9月迄）
- 7月 日高市に第三血液センターの竣工
- 10月 第三血液センターを埼玉県赤十字血液センターとし、旧・埼玉県赤十字血液センター（伊奈町）を埼玉県伊奈赤十字血液センターに、熊谷赤十字血液センターを埼玉県熊谷赤十字血液センターに名称を変更（埼玉県赤十字血液センターを中心とする3血液センターによる県内一体運営体制がスタート）

●1994年（平成6年）

- 3月 HIV-2抗体検査を開始
- 4月 輸血後GVHD防止のための技術（血液製剤への放射線照射）協力を開始
- 11月 3血液センターのオンラインシステム（血液事業統一システム）が稼動

●1995年（平成7年）

- 3月 医療機関に対する血液製剤直配体制に移行（供給業務委託の中止）

●1996年（平成8年）

- 10月 鴻巣自動車運転免許試験場敷地内に鴻巣献血ルームを開設（2014年4月 改築）

●1997年（平成9年）

- 10月 埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける検査業務を埼玉県赤十字血液センターに集約化

●1998年(平成10年)

6月 放射線照射輸血用血液製剤の供給を開始

●1999年(平成11年)

4月 献血者の採血基準を改正(献血年齢を69歳に引上)

5月 献血者データの全国オンラインシステムを稼動

10月 核酸増幅(NAT)検査を導入
プールサイズを500検体でスタート

●2000年(平成12年)

1月 希望者に対するHTLV-1抗体検査結果(異常の場合)の通知を開始

2月 核酸増幅(NAT)検査における検体のプールサイズを50検体に変更

4月 川越献血ルームを移転し、川越献血ルームポケットとして新装開所(2011年10月移転閉所)

6月 埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の一部(血小板製剤等の製造)を埼玉県赤十字血液センターに集約化

7月 第1回彩の国血液フォーラムを開催(以降毎年開催)

8月 熊谷駅施設内に熊谷駅献血ルームを開設(これを機に、埼玉県熊谷赤十字血液センター施設での採血を中止)

●2001年(平成13年)

4月 所沢献血ルームを移転し新装開所(2009年12月移転閉所)

7月 大宮東口献血ルームと大宮西口献血ルームを統合し、大宮駅献血ルームとして大宮駅構内に新装開所(これを機に、埼玉県伊奈赤十字血液センター施設での採血を中止)

8月 埼玉県伊奈赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化

●2002年(平成14年)

6月 埼玉県赤十字血液センター施設の敷地内に同センター新館を建設

7月 埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化(県内における検査・製造業務の集約化が完了)

同時に、採血業務、渉外業務、管理業務等を含む血液センター業務の県内一体運営体制を確立

安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律が制定(全面施行は1年以内)

●2003年(平成15年)

1月 研究部を埼玉県熊谷赤十字血液センター施設内に移転(大宮分室を廃止)

6月 越谷サンシティ献血ルームを新装開所(2008年9月移転閉所)

7月 安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律が全面施行

血液製剤の表示事項(「献血」・「非献血」の採血方法の追加等)・添付文書等の改定など(改正薬事法の施行)

●2004年(平成16年)

1月 新鮮凍結血漿の2ヶ月間(60日間)の貯留保管開始

3月 携帯メールクラブ受付開始

5月 第2次血液事業統一システムへ電算システムの変更

6月 新鮮凍結血漿の貯留保管棟を建設



8月 核酸増幅(NAT)検査における検体のプールサイズを20検体に変更

10月 献血者本人確認の開始
保存前に白血球除去した血小板製剤の供給を開始

12月 新鮮凍結血漿の4か月間(120日間)の貯留保管を開始

●2005年(平成17年)

3月 新鮮凍結血漿の5か月間(150日間)の貯留保管を開始

6月 英国渡航歴のある方の献血受入れ制限措置を開始

7月 新鮮凍結血漿の6か月間(180日間)の貯留保管を開始

●2006年(平成18年)

3月 携帯メールクラブの全国化
タッチパネル方式による問診回答システムの導入

保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿(FFP-5)の製造を開始

4月 埼玉県伊奈赤十字血液センターを伊奈出張所に、埼玉県熊谷赤十字血液センターを熊谷出張所に名称を変更

5月 埼玉センターでの血液製剤の県内一括受注開始

川口駅東口に川口駅献血ルームを開設

7月 長野県赤十字血液センターの検査業務を

埼玉県赤十字血液センターの沿革

- 開始 保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-5）の供給を開始
- 9月 保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-5）の供給を開始
- 10月 群馬県赤十字血液センターの検査業務を開始
これまでの献血手帳から本人確認が簡便で携帯性に優れる「献血カード」を全国で導入

●2007年（平成19年）

- 1月 保存前に白血球除去した赤血球製剤の供給を開始
3月末にかけて段階的に初流血除去を開始
- 4月 栃木県赤十字血液センターの検査業務を開始
- 6月 web会議開始
- 7月 大宮駅献血ルームを移転し新装開所（2014年7月閉所）
- 11月 血小板製剤の有効期限の変更（採血後4日間）

●2008年（平成20年）

- 2月 感染症関連検査を化学発光酵素免疫測定法（CLEIA法）で開始
- 4月 新潟県赤十字血液センターの検査業務を開始



- 9月 長野県赤十字血液センターの製剤業務を開始
越谷献血ルームを移転し、越谷レイクタウン献血ルームとして新装開所
- 10月 研究部を廃止

●2009年（平成21年）

- 3月 糖尿病関連検査グリコアルブミン検査を開始
- 12月 所沢献血ルームを移転し、所沢プロベ通り献血ルームとして新装開所

●2010年（平成22年）

- 1月 英国渡航歴のある方の献血受入れ制限の緩和
- 10月 大宮駅西口に大宮献血ルーム ウェストを開設
- 12月 200mL全血献血者の方にも、血球計数検査結果の通知を開始

●2011年（平成23年）

- 4月 献血の採血基準を一部改正（男性に限り、400mL全血献血が可能な方の年齢の下限を17歳に引き下げ、血小板成分献血が可能な方の年齢の上限を69歳に引き上げた）
- 10月 第35回血液事業学会総会を埼玉県（埼玉会館）で開催（10/20～10/22）



- 10月 川越献血ルームを移転し、川越クレアモール献血ルームとして新装開所

●2012年（平成24年）

- 2月 東松山市に埼玉県東松山赤十字血液センター（製造棟）を開設し、検査・製造業務を移転
茨城県赤十字血液センターの検査・製剤業務を開始
- 3月 群馬県赤十字血液センター、新潟県赤十字血液センター、栃木県赤十字血液センターの製剤業務を開始
- 4月 血液事業の広域運営体制の開始
組織改正に伴い、埼玉県東松山赤十字血液センターが関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所となり、北関東・信越6県の検査及び製剤業務を実施
伊奈出張所が事業所となり、埼玉県赤十字血液センターは3部、1事業所、9出張所体制に変更



- 8月 献血血液の検査基準の変更（輸血後のB型肝炎対策として、「HBc抗体1.0以上12.0未満かつHBs抗体200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施）
- 10月 シャーガス病に係る安全対策の開始

埼玉県赤十字血液センターの沿革

●2013年（平成25年）

- 1月 「献血の同意説明書」の導入
「献血の同意説明書」により献血に伴う副作用に関する事項を含む4項目について同意事項を説明し、同意いただいた方の献血受入れ開始
- 11月 鴻巣献血ルーム改築のため、一時閉所
- 12月 献血会場にて、検査目的の献血のお断りと問診事項への正しい回答で献血していただくため、「責任ある献血」の注意表示を開始

●2014年（平成26年）

- 1月 検査目的の献血者への注意喚起などを収載した「お願い！」パンフレットの改訂
- 4月 鴻巣献血ルームを改築し、開所
- 6月 献血者データの全国オンラインシステムを更新(血液事業情報システム)
- 7月 大宮駅献血ルームを閉所
- 8月 大宮献血ルームウエストを、面積・ベッド数ともに増加して改装
1検体ごとのNAT（個別NAT）スクリーニングを開始
- 9月 血小板の安定供給を目的とした分割採血を開始

●2015年（平成27年）

- 3月 伊奈事業所を閉所
分画製剤の販売を終了



- 4月 さいたま市見沼区に本センターとしての新社屋を竣工し、埼玉県赤十字血液センターの本部機能を移転
旧埼玉センター（本センター）は日高事業所と改称
- 11月 越谷レイクタウン献血ルームを改装

●2016年（平成28年）

- 4月 献血血液のALT（肝機能）検査による製品除外基準の変更
【変更前】6IU/L以上→【変更後】10IU/L以上

●2017年（平成29年）

- 4月 平成19年度から平成28年度において、高校生献血者数が10年連続全国第1位

●2018年（平成30年）

- 10月 献血Web会員サービス「ラブラッド」の運用開始

●2019年（平成31年・令和元年）

- 12月 献血時体温測定開始

●2020年（令和2年）

- 8月 HEV NAT検査開始
- 9月 健康診断基準（血圧・脈拍・体温）の変更

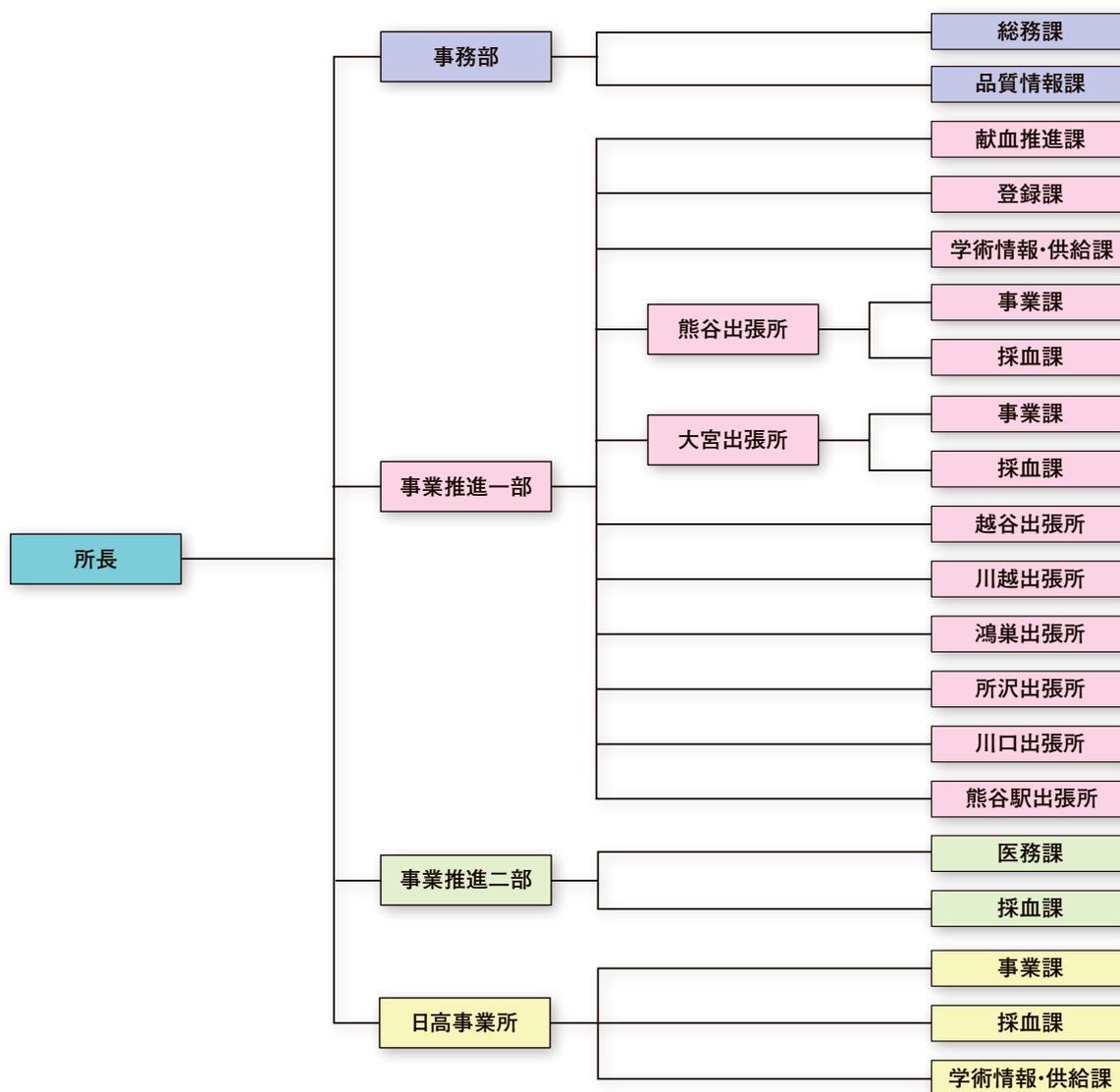
●2021年（令和3年）

- 2月 新型コロナウイルスワクチンを接種された方の献血受入を中止
- 5月 新型コロナウイルスワクチン（mRNAワクチンを含むRNAワクチン）を接種された方の献血受入を開始
- 9月 新型コロナウイルス既感染者の方の献血受入を開始（基準あり）
- 11月 感染症検査において複数回偽陽性であった対象者へ通知の開始
同時に対象の方の献血受入を中止

●2022年（令和4年）

- 1月 県内全献血ルームにて、全血献血の事前検査を指先穿刺による方法へ変更

組織機構図と職員数



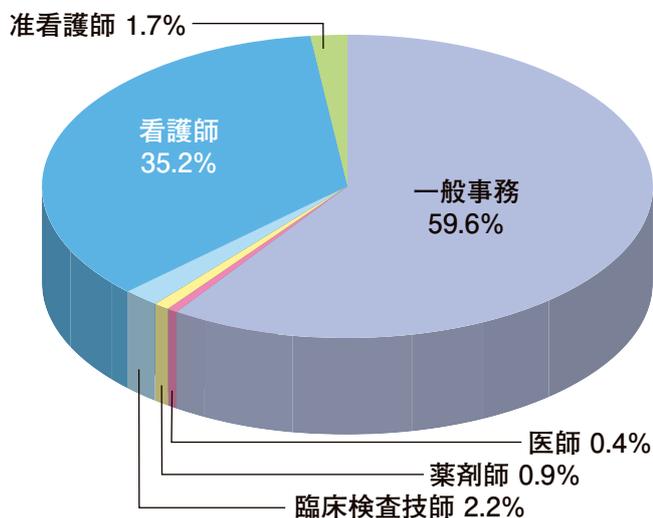
職員数

職種	人数(人)	構成比
一般事務	137	59.6%
医師	1	0.4%
薬剤師	2	0.9%
臨床検査技師	5	2.2%
その他医療職	0	0.0%
看護師	81	35.2%
准看護師	4	1.7%
合計	230	100%

令和4年4月1日現在

※構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない

職種別構成比



血液センターの業務

● 献血者の確保

埼玉県赤十字血液センターでは、県・市町村・献血推進協議会・献血推進団体と協力し、献血計画を作成したうえで、県内の事業所や学校、また地域における献血参加を呼び掛け、日々献血される方の受け入れを行っています。

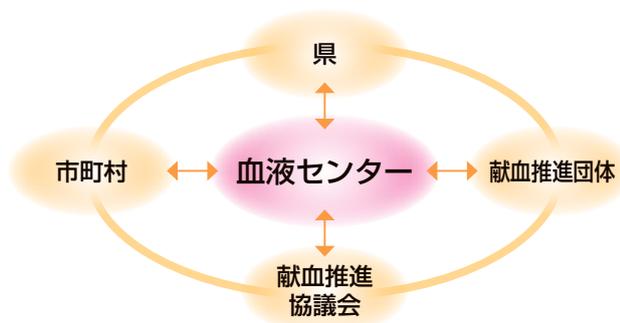
また、医療機関からの要請に対して、安定した血液の供給体制を確立するため、若年層に対する献血啓発や献血協賛企業の推進を図り、より安全な血液を確保するための各種キャンペーンを行っています。その他、Rh（-）の血液型やまれな血液型など、その患者さんにあった血液を確保する必要がある場合には、電話や手紙、メールでの献血協力要請を行っています。特に献血の依頼を迅速に行えるよう携帯電話のメールを活用した複数回献血クラブ「ラブラッド」を設立し、そのクラブへの登録も推進しています。



献血ルーム受付



移動採血



複数回献血クラブ（ラブラッド）

平成 30 年度一般公募により、複数回献血クラブの愛称を「ラブラッド」に全国統一しました。

ラブラッドは安全性の高い輸血用血液を安定的に患者さんへお届けする事を目的として、年に複数回、県内の献血会場での 400 mL 献血または成分献血にご協力いただける方を募集しています。

会員の皆様には血液センターから状況に合わせた献血依頼のメールを送信し、依頼内容に合った献血をお願いしています。また、ラブラッド会員限定のイベントも開催しており、会員の皆様からご好評いただいております。

● 献血依頼メール等の一例

- ・ 献血ルームにおいて成分献血を安定的に確保するための定期的な配信
- ・ 献血バスにおける 400 mL 献血を安定的に確保するための配信
- ・ 献血者の減少により血液確保に困難な状況が生じている時の献血依頼
- ・ 特定の血液型が多く使用されている状況での献血依頼
- ・ 血液在庫状況のお知らせ
- ・ イベント・キャンペーン開催のお知らせ

● ラブラッドの特典

- ・ 平成 17 年 4 月以降の検査成績等を見ることができます。
また、グラフでも表示されます。
- ・ ラブラッドポイントが貯まります。(全国共通)
- ・ 20 ポイント貯まると次回の献血時に記念品と交換ができます。
- ・ 会員様対象に開催するイベント(ヨガ教室・料理教室等)に参加できます。
- ・ 献血ルームにおける成分献血、400 mL 献血の予約ができます。
- ・ 献血バス(一部会場)における 400 mL 献血の予約ができます。



会員登録はこちら

<https://www.kenketsu.jp/>

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。

献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター」ロゴマークを日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が制作したものです。
※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。

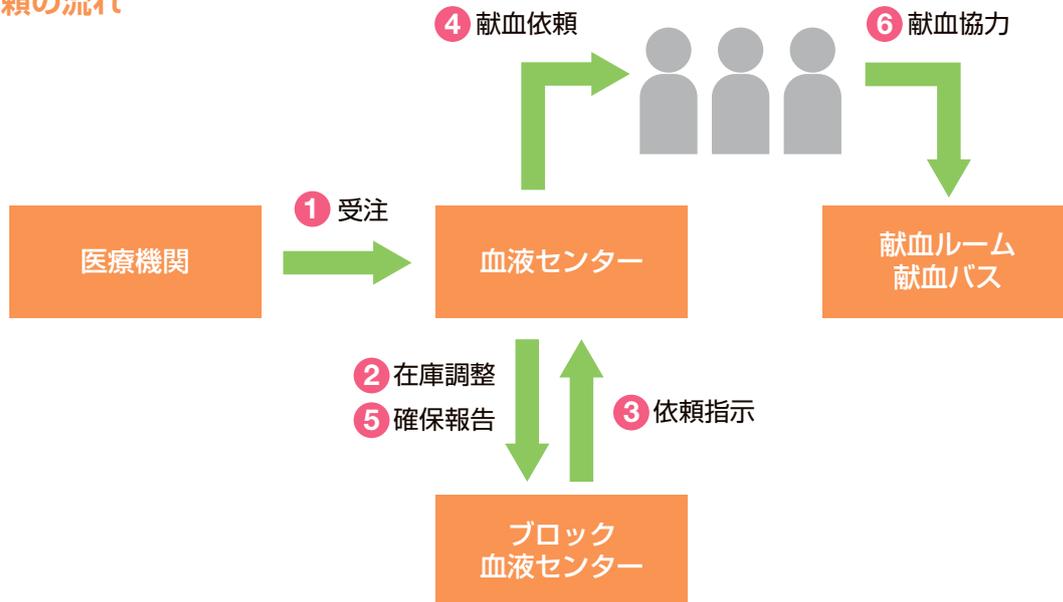


特殊な血液の献血依頼要請

埼玉県赤十字血液センターでは、皆様に献血の申し込みをいただく際に、献血依頼要請の可否について確認しています。この項目にご同意いただいた方に対して、下記のような場合に電話で献血のお願いをしています。

- (1) 輸血用血液の在庫が減少傾向にある場合
- (2) Rh(一)の血液の在庫が必要になった場合
- (3) まれな血液が必要になった場合

●献血依頼の流れ



平成24年度から血液製剤のさらなる「安全性の向上」と「安定供給の確保」および「効率的な事業運営」を行うため、これまでの都道府県単位の事業運営体制を見直し、各都道府県の血液センター単位によるものから、ブロックを単位とする広域的な事業運営体制に移行しました。このブロック化により血液在庫も広域で管理され、特殊血の在庫状況も短時間で把握できるようになりました。また、在庫がない場合にもブロックセンターが複数の血液センターに依頼要請を出すことにより、医療機関に対してより迅速な対応が可能となりました。

● 採 血

埼玉県赤十字血液センターでは、県内7か所に献血ルームを開設しています。また、県内1か所の血液センターと2か所の事業所及び出張所に配置した移動採血車を職場や地域の献血会場へ配車し、来場された献血者から採血しています。献血には下記のような種類がありますが、それぞれ採血するときには、献血者及び輸血を受ける患者さんの安全確保のために、血色素量・献血歴等の確認のほか、検診医師による血液検査ではチェックできない項目等の問診を行っています。



問 診



採血室



● 供 給

埼玉県赤十字血液センターでは、埼玉センター・日高事業所・熊谷出張所の3供給施設において、各血液製剤を定められた条件下で適切に保管・管理しています。また、県内の3供給施設に血液運搬車を配備し、県内の医療機関に血液製剤を供給しています。医療機関からの発注は、埼玉センターで一括受注され、3供給施設から県内の約500医療機関に必要な血液製剤を24時間体制で供給しています。さらに、全国を7つのブロックに分け、広域的な血液製剤の需給管理体制により、輸血を必要としている患者さんのため、迅速に対応しています。



血液運搬車



供給出庫作業



供給出庫作業

●学 術

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を医療関係者に提供・収集・伝達する役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術情報部門がその業務を行っています。いわば医療のパートナーとして訪問活動しており、輸血関連情報や適正使用に関する情報等の提供、輸血副作用への対応、問い合わせの対応、埼玉輸血セミナーや勉強会の講師などを主な業務としています。特に輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置付けられています。

また、適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すため、平成21年7月には県内医療機関で組織される「埼玉県合同輸血療法委員会」が設置されました。令和3年3月6日（土）には、「第12回埼玉輸血フォーラム」をウェブ開催し、同委員会での活動の成果を報告しました。



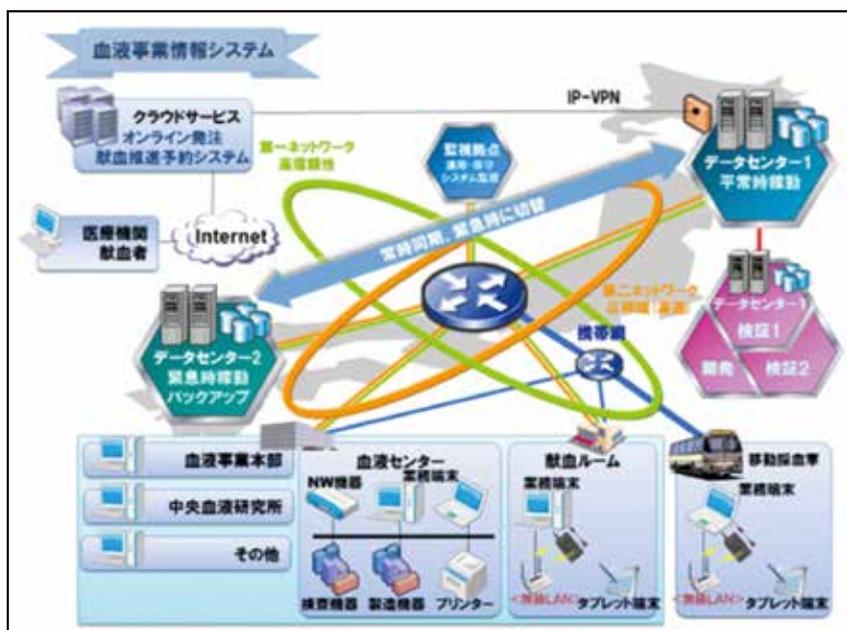
情報媒体の一例



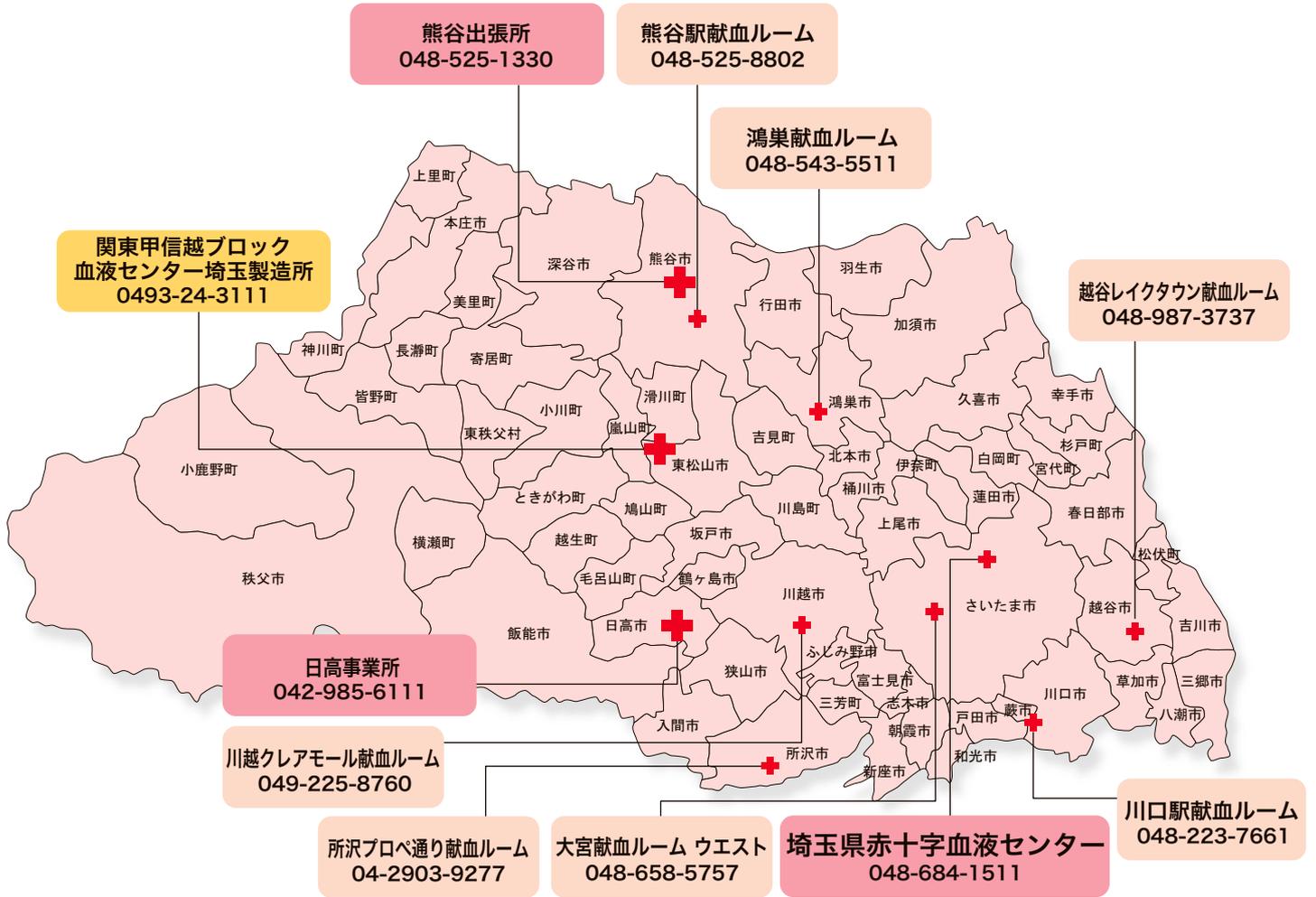
埼玉輸血フォーラム

●情報システムネットワーク

各地の血液センターでは、全国統一のコンピュータシステムを導入し、献血された血液を受け入れてから医療機関に供給するまでの業務をコンピュータ管理しています。また、全国的に整備されたオンラインネットワークを利用し、献血データの一元管理等を行って血液製剤の安全性の確保に役立っています。



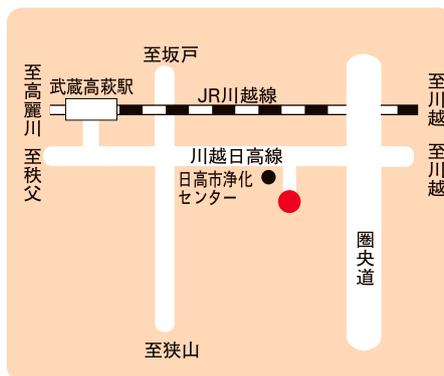
施設の案内



埼玉県赤十字血液センター



日高事業所



熊谷出張所



血液センター



埼玉センター全景

埼玉県赤十字血液センター

- 1 開設年月日 平成27年4月1日
- 2 所在地 337-0003
埼玉県さいたま市見沼区深作955-1
- 3 案内 JR宇都宮線東大宮駅からおよそ2km
048-684-1511
- 4 敷地面積 8,921.75㎡
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建
- 6 延床面積 2,794.66㎡

日高事業所

- 1 開設年月日 平成5年10月1日
- 2 所在地 350-1213
埼玉県日高市高萩1370-12
- 3 案内 JR川越線武蔵高萩駅からおよそ2km
042-985-6111
- 4 敷地面積 9,830㎡
(埼玉県及び日高市有地)
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建 (本館)
鉄筋造 地上2階建 (新館)
- 6 延床面積 2,885.0㎡ (本館)
313.7㎡ (新館)



日高事業所全景



熊谷出張所全景

熊谷出張所

- 1 開設年月日 昭和58年7月1日
- 2 所在地 360-0806
埼玉県熊谷市奈良新田398-1
- 3 案内 JR高崎線熊谷駅北口からおよそ6km
048-525-1330
- 4 敷地面積 6,289㎡ (熊谷市有地)
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造
地上2階、地下1階建
- 6 延床面積 2,613.7㎡

献血ルームの案内

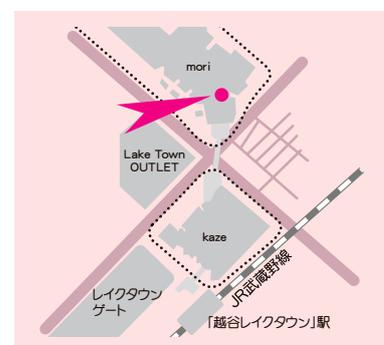
大宮献血ルーム ウェスト

- 所在地**
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-4-1
DOM PARTⅢ 5階・6階
- 電話**
048-658-5757
- 受付時間**
成分献血 9:45～17:00
全血献血 9:45～18:30
- 休業日** 年末年始(臨時開設があります)



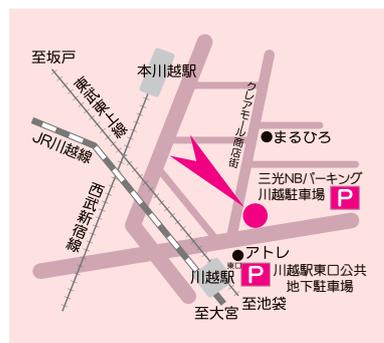
越谷レイクタウン献血ルーム

- 所在地**
〒343-0828 埼玉県越谷市レイクタウン3-1-1
イオンレイクタウンmori 1階
- 電話**
048-987-3737
- 受付時間**
成分献血 9:45～16:30
全血献血 9:45～17:30
※入居施設の営業時間により
変更になる可能性があります
- 休業日** 年末年始(臨時開設があります)



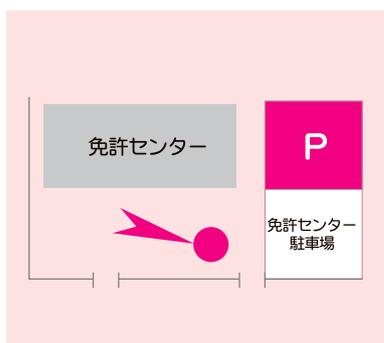
川越クリアモール献血ルーム

- 所在地**
〒350-1122 埼玉県川越市脇田町4-2
ドン・キホーテ川越東口店4階
- 電話**
049-225-8760
- 受付時間**
成分献血 9:45～12:30 / 14:00～16:30
全血献血 9:45～17:30
- 休業日** 年末年始(臨時開設があります)
ビル休館日



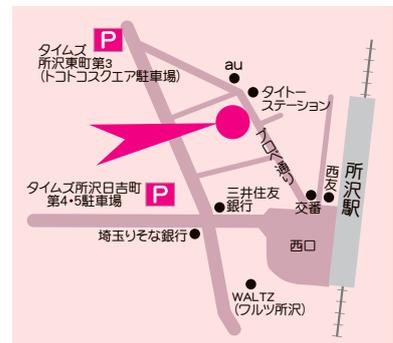
鴻巣献血ルーム

- 所在地**
〒365-0028 埼玉県鴻巣市鴻巣405-4
埼玉県運転免許センター内
- 電話**
048-543-5511
- 受付時間**
全血献血 8:45～13:00 / 14:00～16:30
- 休業日** 土曜・祝日及び年末年始
(運転免許センターの休業日)



所沢プロペ通り献血ルーム

- 1 所在地
〒359-1123 埼玉県所沢市日吉町10-19
Tokorozawa ex 2階
- 2 電話
04-2903-9277
- 3 受付時間
成分献血 9:45~12:30 / 14:00~16:30
全血献血 9:45~13:00 / 14:00~17:30
- 4 休業日 年末年始(臨時開設があります)



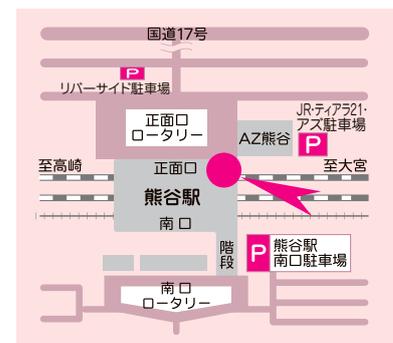
川口駅献血ルーム

- 1 所在地
〒332-0017 埼玉県川口市栄町3-1-24
川口駅東口ビル3階
- 2 電話
048-223-7661
- 3 受付時間
成分献血 9:45~12:30 / 14:00~16:30
全血献血 9:45~13:00 / 14:00~17:30
- 4 休業日 年末年始(臨時開設があります)



熊谷駅献血ルーム

- 1 所在地
〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波2-112
JR熊谷駅構内
- 2 電話
048-525-8802
- 3 受付時間
成分献血 9:45~12:30 / 14:00~16:30
全血献血 9:45~13:00 / 14:00~17:30
- 4 休業日 毎週木曜日
※木曜日が祝日の場合は開所
年末年始(臨時開設があります)



広報・キャンペーン活動

1 新社会人応援献血キャンペーン

開催日	令和3年4月1日（木）～6月30日（水）
会場	県内各移動採血車及び各献血ルーム
内容	ポスターやSNSによるPR 献血ルーム及び献血バスにて献血を実施した新社会人を対象に 県が作製した記念品を配布
共催	埼玉県



新社会人応援献血キャンペーン

2 世界献血者デー

開催日	令和3年6月12日（土）
会場	県内各移動採血車及び各献血ルーム
内容	世界献血者デーの趣旨に則り献血者の皆様に感謝するとともに、 献血の必要性を広く知って頂くため、地元のプロサッカーチーム である大宮アルディージャ協力のもとキャンペーンを実施
協力	大宮アルディージャ



世界献血者デー

3 愛の血液助け合い運動

期間	令和3年7月1日（木）～7月31日（土）
会場	県内各移動採血車及び各献血ルーム
内容	「献血推進ポスターコンクール」の実施 「彩の国さいたま愛の血液助け合いの集い」 ※新型コロナウイルスの影響により中止 （彩の国さいたま愛の血液助け合い運動は令和3年7月1日 （木）から8月31日（火）まで実施）
実施機関	埼玉県・日本赤十字社埼玉県支部



ポスターコンクール最優秀賞ポスター

4 初回献血+ラブラッド登録キャンペーン

期間	令和3年9月1日（水）～11月30日（火）
会場	県内各移動採血車及び各献血ルーム
内容	ポスターやSNSによるPR 初めて献血を実施し、かつ献血Web会員サービス「ラブラッド」 の会員登録をされた方を対象に、県が作製した記念品を配布
共催	埼玉県



初回献血+ラブラッド登録キャンペーン

5 クリスマス献血キャンペーン2021

期 間	令和3年12月16日（木）
内 容	埼玉西武ライオンズ選手による献血啓発動画の放映
イベント	埼玉県赤十字血液センター公式Youtubeチャンネルにおいて、 埼玉西武ライオンズ大曲錬投手・水上由伸投手のメッセージ動画放映 12月18日（土）・19日（日）埼玉県内の献血会場にて献血協力者へ埼玉西武ライオンズコラボレーショングッズを進呈
共 催	日本赤十字社埼玉県支部・埼玉県学生献血推進連盟
後 援	埼玉県
協 力	株式会社西武ライオンズ・埼玉県青年赤十字奉仕団連絡協議会



クリスマス献血キャンペーン

6 「はたちの献血」キャンペーン

期 間	令和4年1月1日（土）～2月28日（月）
会 場	県内各移動採血車及び各献血ルーム 等
内 容	マスメディアやHP及びSNSによるPR 県作製啓発用資材を成人式の会場等で配付
共 催	埼玉県



はたちの献血キャンペーン

7 シニア60～64（ロクマルロクヨン）初回献血キャンペーン

期 間	令和4年1月1日（土）～3月31日（木）
会 場	県内各移動採血車及び各献血ルーム
内 容	ポスターやSNSによるPR 献血ルーム及び献血バスにて献血を実施した60歳から64歳の間に初めて献血された方（59歳までの献血経験の有無は問わない）を対象に県が作製した記念品を配布
共 催	埼玉県



シニア60～64キャンペーン

8 卒業献血キャンペーン

期 間	令和4年2月1日（火）～4月30日（土）
会 場	県内各移動採血車及び各献血ルーム
内 容	卒業する県内の高校生へPRチラシを配布し献血協力を依頼 献血協力時対象者へは県作製の記念品を進呈
共 催	埼玉県・埼玉県教育委員会



卒業献血キャンペーン

研修・見学

1 臨床研修医対象研修

目的：輸血を行う立場にある医師を対象とした血液事業に対する理解の向上

埼玉医科大学 臨床研修医

6月14日(1名)、7月12日(1名)、10月25日(1名)、11月1日(1名)、11月8日(1名)
12月6日(1名)、12月13日(1名)、1月11日(1名)、2月1日(1名)、2月14日(1名)

埼玉医科大学総合医療センター 臨床研修医

6月1日(1名)、8月2日(1名)、9月6日(1名)、10月1日(1名)、11月1日(1名)
12月1日(1名)、1月4日(1名)、2月1日(1名)

埼玉医科大学国際医療センター 臨床研修医

参加なし

さいたま赤十字病院 臨床研修医

参加なし

深谷赤十字病院 臨床研修医

参加なし

参加人数合計：18名

2 学生対象研修

(1) 埼玉県学生献血推進連盟“赤い絆”新規加入者宿泊研修

目的：学生献血推進連盟新規加盟者を対象とした献血についての基礎知識の取得、学生献血推進連盟OB・OGの講演にて活動意義の理解やモチベーション向上を図る。

※令和2年度・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み開催していない

(2) 学生献血推進リーダーの集い

目的：各地域センターでの若年層献血者確保に対する取り組みやキャンペーンの報告並びに情報の共有を図り活動の幅を広げる。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み開催していない

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑みオンラインでの開催となった。



学生献血推進連盟新規加入者宿泊研修①



学生献血推進連盟新規加入者宿泊研修②



学生献血推進リーダーの集い①



学生献血推進リーダーの集い②

※令和元年度開催時の写真となります。

3 学生を対象とした講座

目的：将来の献血を担う若年層を対象とした献血の重要性の伝達

6月24日（木）東武医学技術専門学校（生徒66名・教員2名）
11月17日（水）埼玉県立川口北高等学校（生徒358名・教員25名）
12月15日（水）埼玉県立川越工業高等学校（生徒813名）
2月5日（土）浦和学院高等学校（生徒778名・教員33名）
3月17日（木）埼玉県立与野高等学校（生徒710名・教員64名）
参加人数合計：生徒2,725名・教員124名



※平成30年度開催時の写真となります。

4 献血協力団体における献血研修会

目的：献血協力団体を対象とした献血の現状報告や健康や献血に関する知識の共有

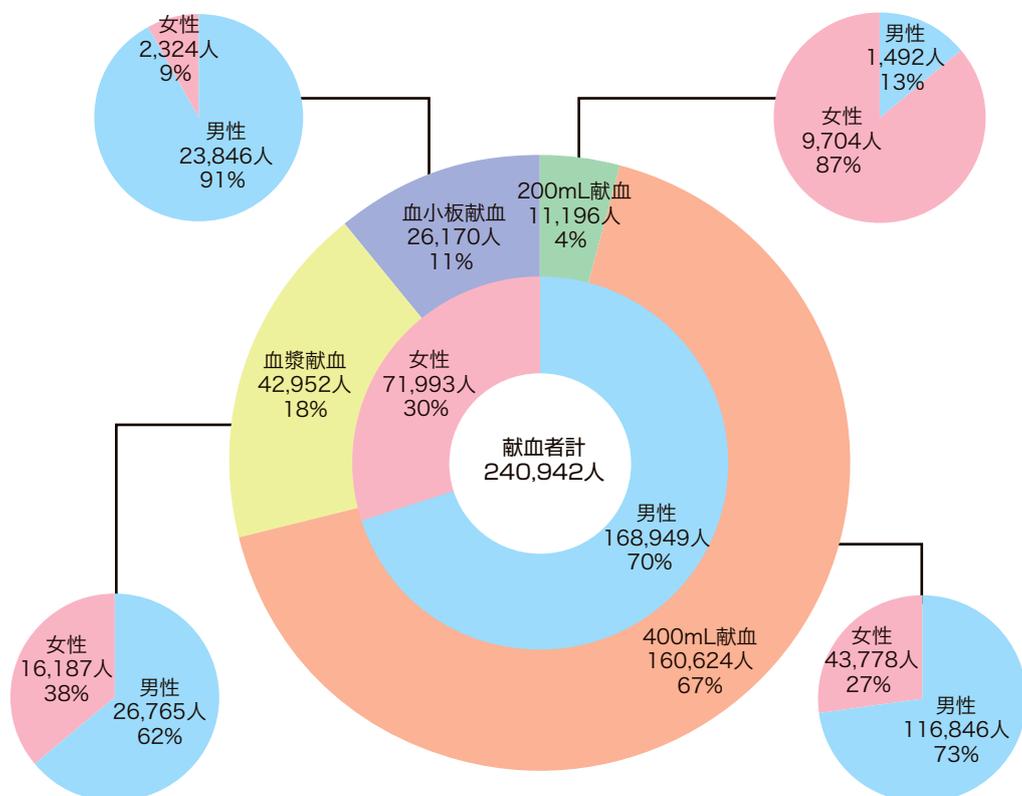
4月6日（火）蕨ロータリークラブ
4月15日（木）八潮青年会議所
5月10日（月）戸田ロータリークラブ
5月16日（金）国際ロータリー第2770地区ローターアクト
5月25日（火）一般社団法人生命保険協会 埼玉県協会
6月23日（水）坂戸さつきロータリークラブ
狭山ライオンズクラブ
7月1日（木）久喜ロータリークラブ
7月13日（火）川越ロータリークラブ
10月5日（火）川口西ロータリークラブ
11月3日（水）天理教埼玉教区
2月10日（木）入間ライオンズクラブ
3月9日（水）大宮ロータリークラブ
参加人数合計：390名

5 大学生等に向けた研修会等

跡見学園女子大学（Web開催）
埼玉県立常盤高等学校
埼玉県立三郷高等学校

統計資料

1 献血種類別献血者数



月別献血者数



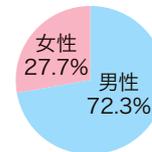
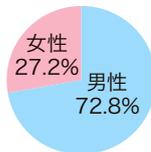
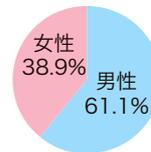
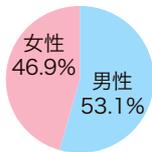
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	240,942	19,750	20,656	20,229	19,305	19,999	19,570	20,553	20,863	20,920	20,458	18,312	20,327
200mL	11,196	873	778	878	969	857	785	996	940	1,517	853	774	976
400mL	160,624	13,171	13,723	13,552	12,346	13,221	13,058	13,629	14,164	13,945	14,010	12,181	13,624
血漿	42,952	3,670	4,097	3,611	3,693	3,750	3,616	3,596	3,624	3,170	3,443	3,253	3,429
血小板	26,170	2,036	2,058	2,188	2,297	2,171	2,111	2,332	2,135	2,288	2,152	2,104	2,298

2 年代別献血者数

16~19歳 10,376人 4.3%	20~29歳 31,644人 13.1%	30~39歳 35,820人 14.9%	40~49歳 62,881人 26.1%	50~59歳 71,888人 29.8%	60~69歳 28,333人 11.8%
---------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

(人)

男性	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計	
	5,514	200mL	19,334	200mL	24,835	200mL	45,749	200mL	51,974	200mL	21,543	200mL
	1,231	400mL	103	400mL	40	400mL	31	400mL	57	400mL	30	400mL
	4,007	血漿	16,093	血漿	18,437	血漿	31,151	血漿	33,924	血漿	13,234	血漿
	191	血小板	1,625	血小板	3,023	血小板	7,052	血小板	9,504	血小板	5,370	血小板
	85		1,513		3,335		7,515		8,489		2,909	



(人)

女性	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計	
	4,862	200mL	12,310	200mL	10,985	200mL	17,132	200mL	19,914	200mL	6,790	200mL
	3,113	400mL	1,884	400mL	924	400mL	1,316	400mL	1,739	400mL	728	400mL
	1,510	血漿	8,107	血漿	6,859	血漿	10,597	血漿	12,619	血漿	4,086	血漿
	226	血小板	2,109	血小板	2,603	血小板	4,134	血小板	5,139	血小板	1,976	血小板
	13		210		599		1,085		417		0	

3 職業別献血者数

公務員 31,808人 13.2%	会社員 140,844人 58.5%	学生 17,173人 7.1%	その他 51,117人 21.2%
-------------------------	--------------------------	-----------------------	-------------------------

(人)

男性	公務員		会社員		学生		その他	
	合計		合計		合計		合計	
	26,949	200mL	111,490	200mL	9,468	200mL	21,042	200mL
	50	400mL	157	400mL	1,242	400mL	43	400mL
	19,954	血漿	76,157	血漿	7,178	血漿	13,557	血漿
	3,712	血小板	18,216	血小板	580	血小板	4,257	血小板
	3,233		16,960		468		3,185	

※構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない

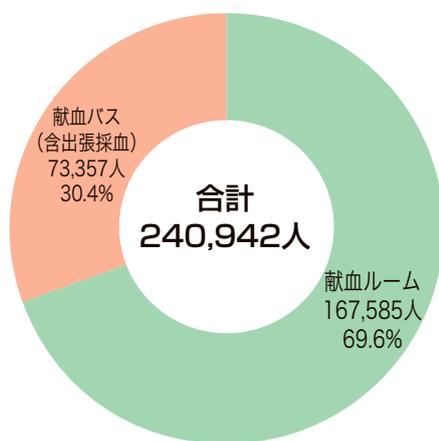
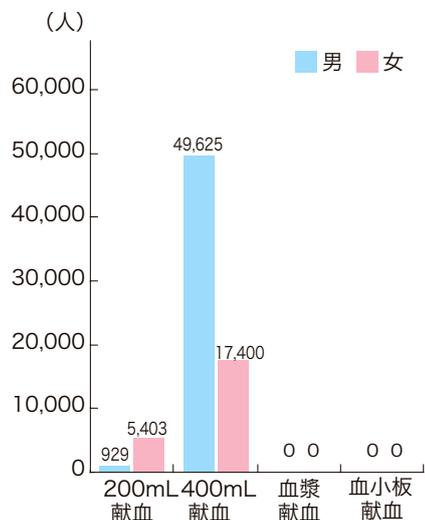


(人)

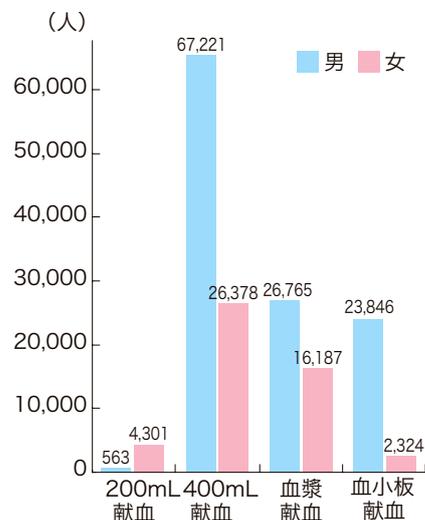
女性	公務員		会社員		学生		その他	
	合計		合計		合計		合計	
	4,859	200mL	29,354	200mL	7,705	200mL	30,075	200mL
	663	400mL	2,828	400mL	3,620	400mL	2,593	400mL
	3,150	血漿	18,817	血漿	3,376	血漿	18,435	血漿
	944	血小板	6,545	血小板	659	血小板	8,039	血小板
	102		1,164		50		1,008	

4 受入施設別献血者数

移動採血

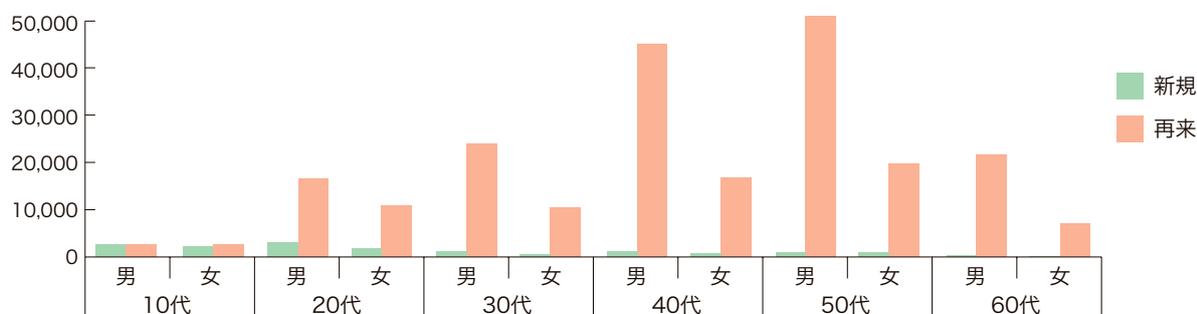


献血ルーム



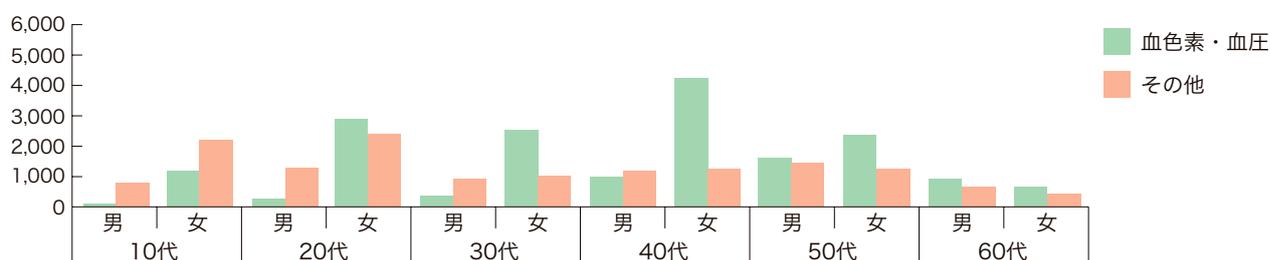
5 年代別新規再来献血者数

	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	240,942	5,514	4,862	19,334	12,310	24,835	10,985	45,749	17,132	51,974	19,914	21,543	6,790	168,949	71,993
新規	14,005	2,759	2,189	2,847	1,619	1,026	576	860	586	668	630	134	111	8,294	5,711
再来	226,937	2,755	2,673	16,487	10,691	23,809	10,409	44,889	16,546	51,306	19,284	21,409	6,679	160,655	66,282



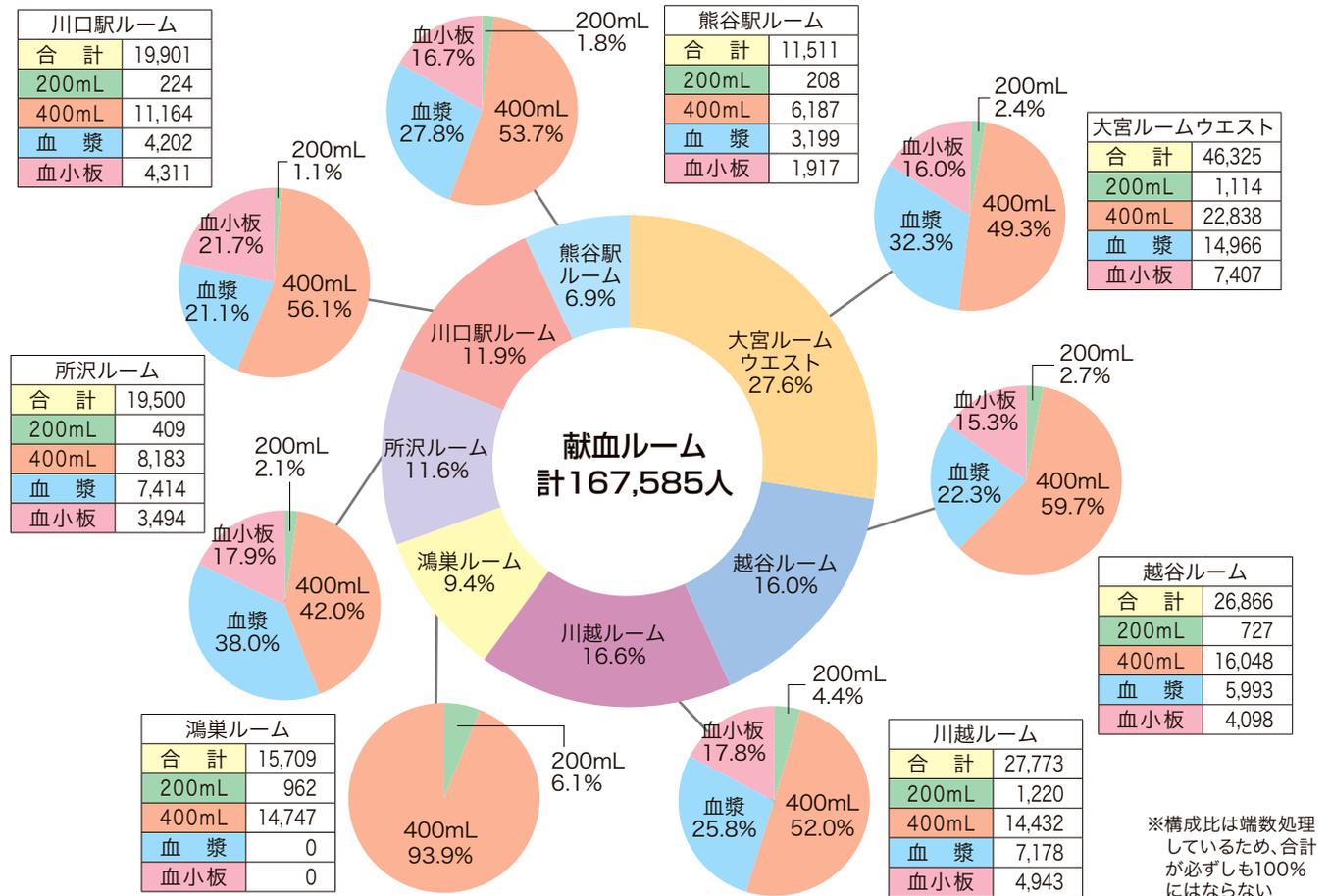
6 献血不適格者数

	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	32,513	870	3,365	1,499	5,297	1,242	3,542	2,157	5,449	2,988	3,530	1,543	1,031	10,299	22,214
血色素・血圧	17,908	105	1,163	234	2,905	343	2,529	967	4,224	1,577	2,318	905	638	4,131	13,777
その他	14,605	765	2,202	1,265	2,392	899	1,013	1,190	1,225	1,411	1,212	638	393	6,168	8,437



7 献血ルームの受入状況

①献血ルーム別献血者数



②職業別献血者数

	合計	公務員		会社員		高校生		学生		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	167,585	13,335	2,462	82,449	20,202	1,342	1,800	4,769	3,574	16,500	21,152
ウエスト	46,325	3,907	800	22,475	5,968	378	563	1,402	1,050	3,963	5,819
越谷	26,866	1,957	377	13,576	3,042	188	275	605	512	2,472	3,862
川越	27,773	2,130	396	12,995	3,382	353	485	1,143	817	2,779	3,293
鴻巣	15,709	883	177	7,595	1,893	103	74	566	350	1,816	2,252
所沢	19,500	2,210	370	8,899	2,166	104	175	499	495	2,147	2,435
川口駅	19,901	1,256	181	10,836	2,550	133	153	349	234	2,004	2,205
熊谷駅	11,511	992	161	6,073	1,201	83	75	205	116	1,319	1,286

③新規再来別献血者数

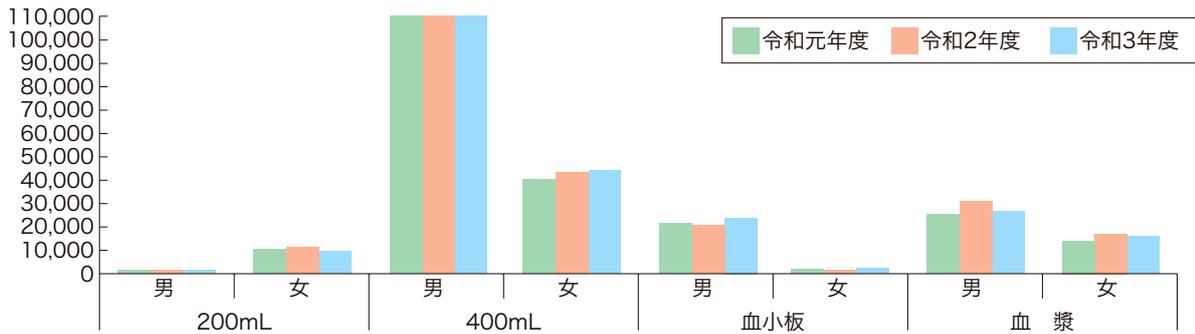
	合計	新規		再来	
		男	女	男	女
合計	167,585	2,983	2,811	115,412	46,379
ウエスト	46,325	563	686	31,562	13,514
越谷	26,866	439	424	18,359	7,644
川越	27,773	468	621	18,932	7,752
鴻巣	15,709	871	517	10,092	4,229
所沢	19,500	218	262	13,641	5,379
川口駅	19,901	292	217	14,286	5,106
熊谷駅	11,511	132	84	8,540	2,755

8 献血者の推移

① 献血種類別の推移

(人)

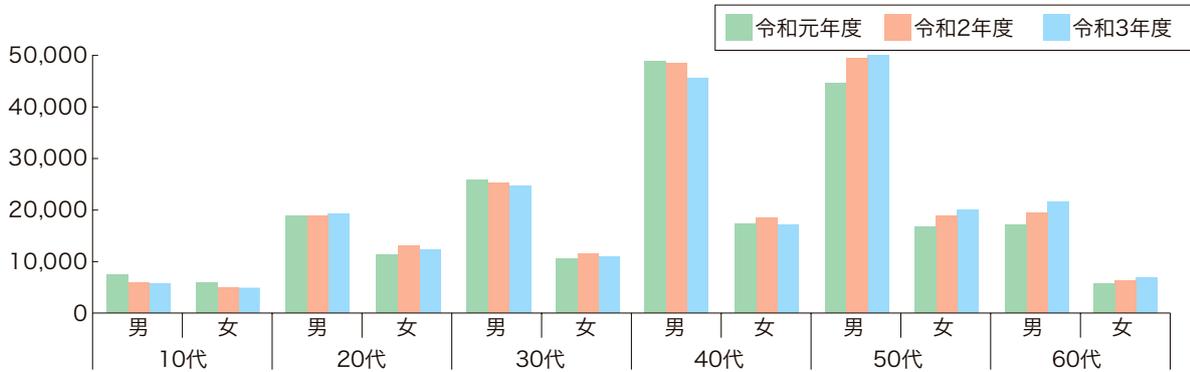
	合計	200mL		400mL		血小板		血漿		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和元年度	229,804	2,373	10,561	113,892	40,169	21,674	1,934	25,153	14,048	163,092	66,712
令和2年度	240,447	1,787	11,156	114,192	43,070	20,688	1,789	30,762	17,003	167,429	73,018
令和3年度	240,942	1,492	9,704	116,846	43,778	23,846	2,324	26,765	16,187	168,949	71,993



② 年齢別の推移

(人)

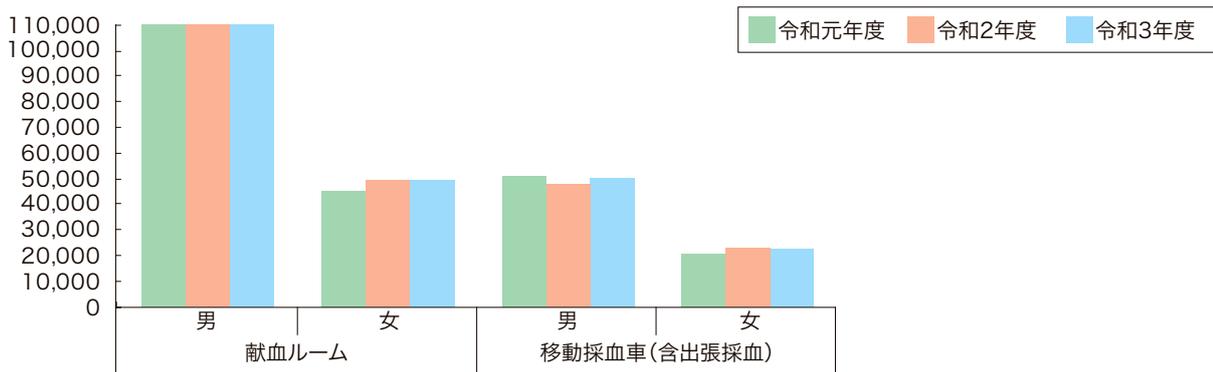
	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和元年度	229,804	7,475	5,815	18,898	11,460	25,954	10,262	48,815	17,160	44,797	16,584	17,153	5,431	163,092	66,712
令和2年度	240,447	5,810	4,818	18,869	12,961	25,162	11,464	48,545	18,522	49,439	18,931	19,604	6,322	167,429	73,018
令和3年度	240,942	5,514	4,862	19,334	12,310	24,835	10,985	45,749	17,132	51,974	19,914	21,543	6,790	168,949	71,993



③ 受入施設別推移

(人)

	合計	献血ルーム		移動採血車 (含出張採血)		計	
		男	女	男	女	男	女
令和元年度	229,804	111,751	45,701	51,341	21,011	163,092	66,712
令和2年度	240,447	119,223	49,591	48,206	23,427	167,429	73,018
令和3年度	240,942	118,395	49,190	50,554	22,803	168,949	71,993



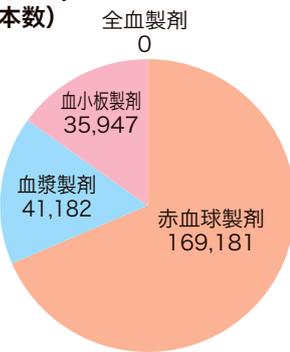
9 供給の状況

①血液製剤種類別供給数

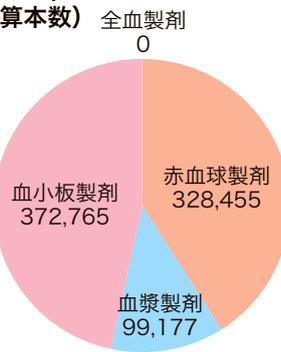
※「単位換算本数」は、各製剤の単位数を本数に換算した本数

	1単位製剤	2単位製剤	成分							本数合計	単位換算
			FFP-480	1単位	2単位	5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	0	—	—	—	—	—	—	—	0	0
赤血球製剤	9,907	159,274	—	—	—	—	—	—	—	169,181	328,455
血漿製剤	1,071	31,169	8,942	—	—	—	—	—	—	41,182	99,177
血小板製剤	—	—	—	—	—	341	33,320	1,572	714	35,947	372,765
合計	10,978	190,443	8,942	0	0	341	33,320	1,572	714	246,310	800,397

246,310本
(実本数)



800,397本
(単位換算本数)

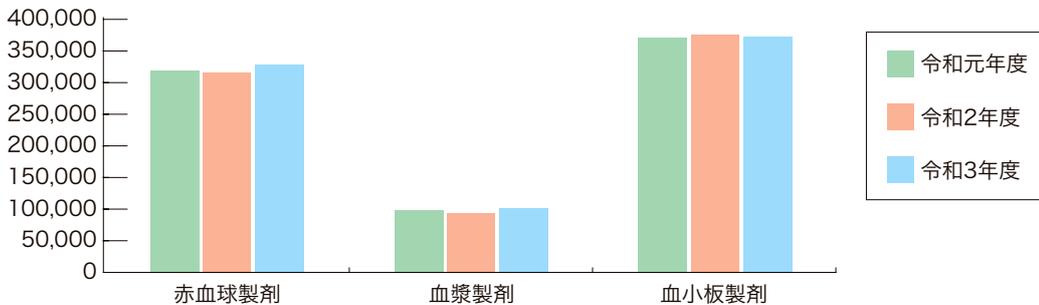


②輸血用血液製剤の推移

(200mL換算本数)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
令和元年度	787,273	0	319,150	97,473.0	370,650
令和2年度	785,795	0	316,592	93,561.0	375,642
令和3年度	800,397	0	328,455	99,177.0	372,765

※平成29年度に血漿製剤の算定方式が変更となりました。

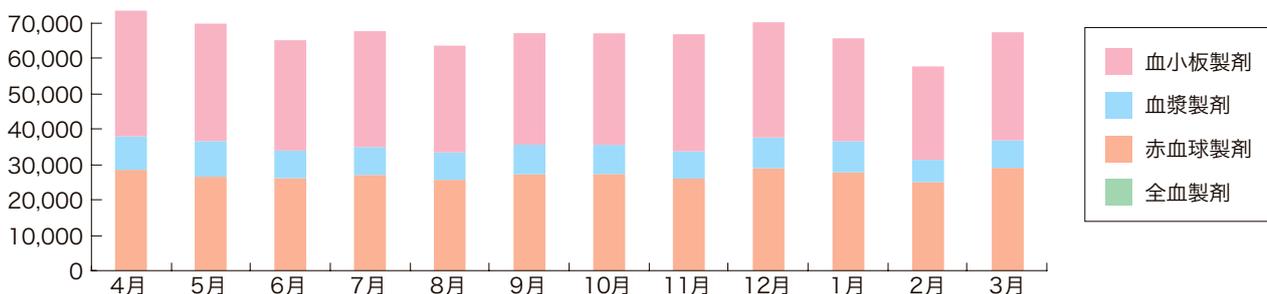


※全血製剤は、値が小さいため省略した。

③月別供給数

(200mL換算本数)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	328,455	28,718	26,979	26,215	27,027	25,950	27,174	27,629	27,728	28,955	27,739	25,100	29,241
血漿製剤	99,177	9,206	9,698	7,831	7,977	7,235	8,270	7,976	9,819	8,468	8,572	6,253	7,872
血小板製剤	372,765	35,335	32,865	30,825	32,530	30,125	31,525	31,440	30,190	32,350	29,230	26,240	30,110





日本赤十字社

埼玉県赤十字血液センター

<https://www.bs.jrc.or.jp/kts/saitama/>

